

# 顆粒球系細胞の分化連続画像

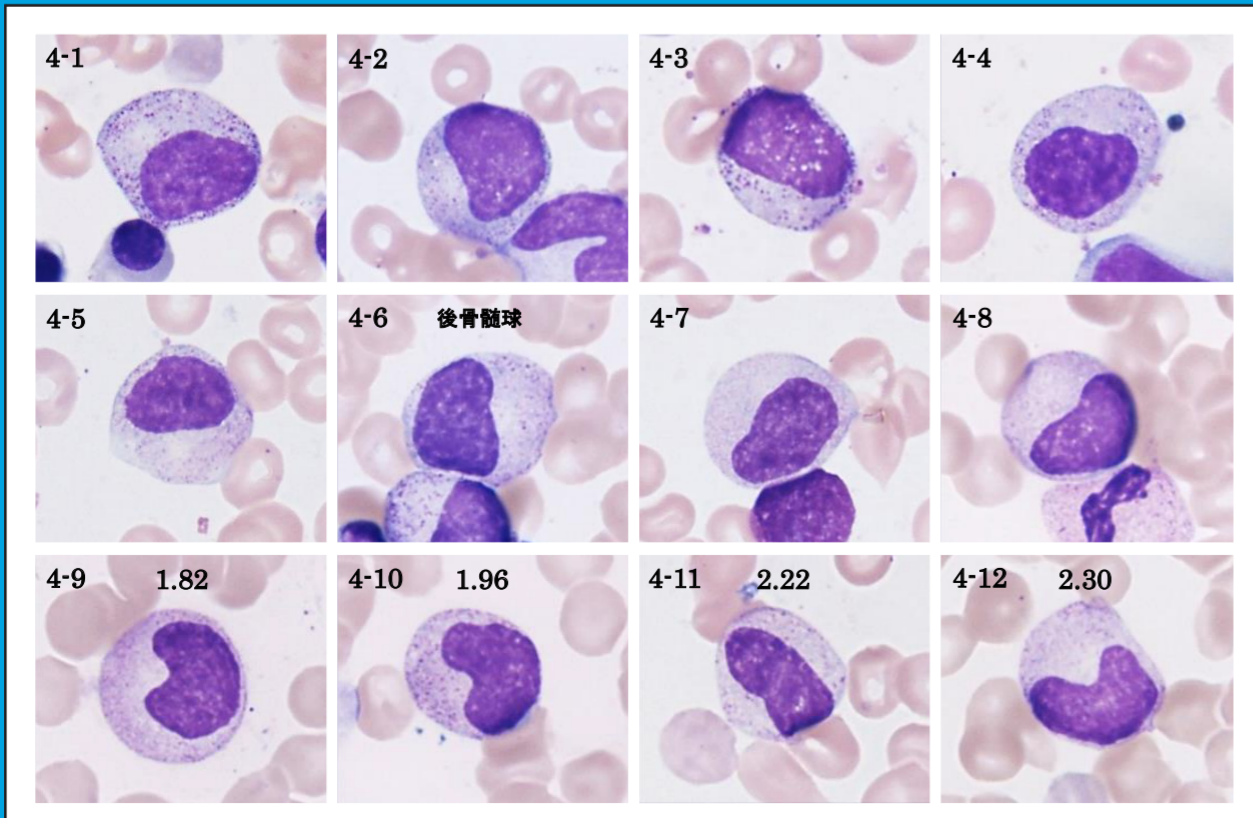
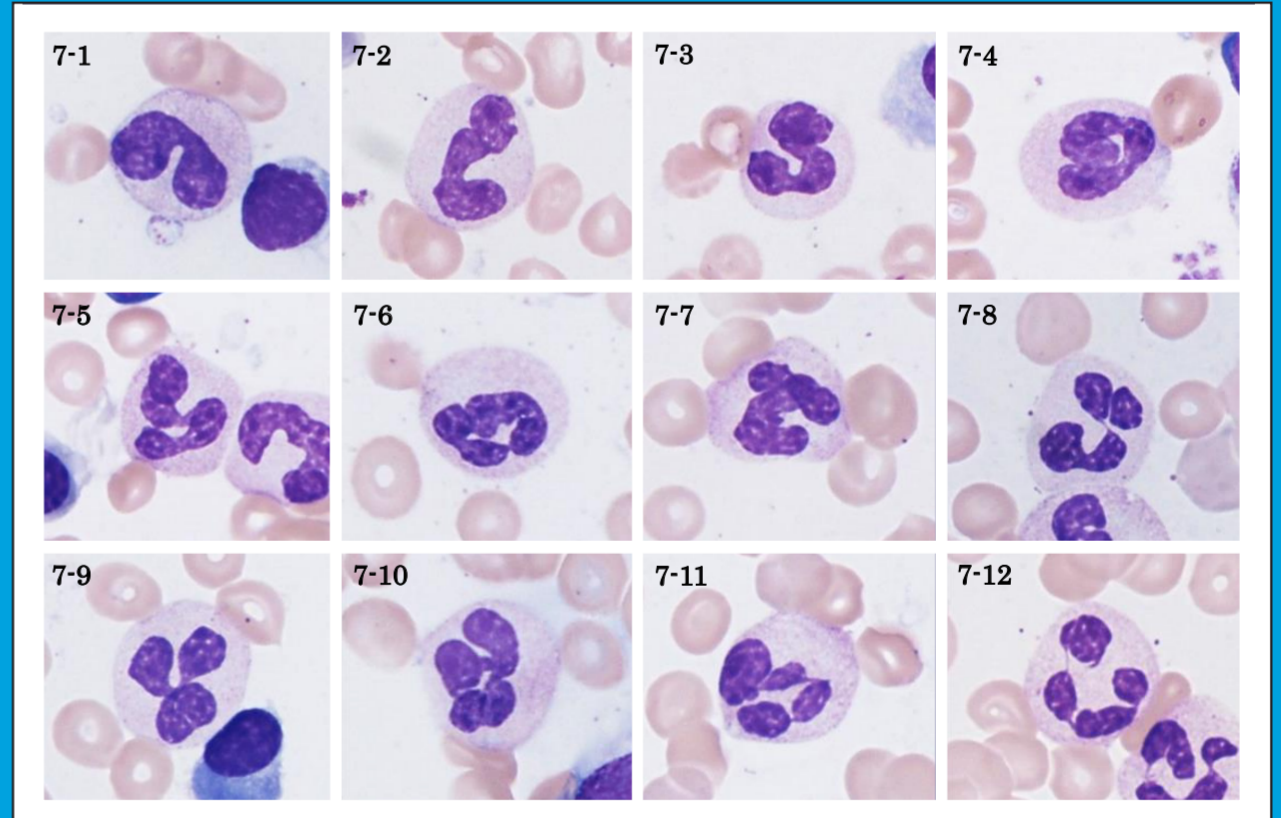
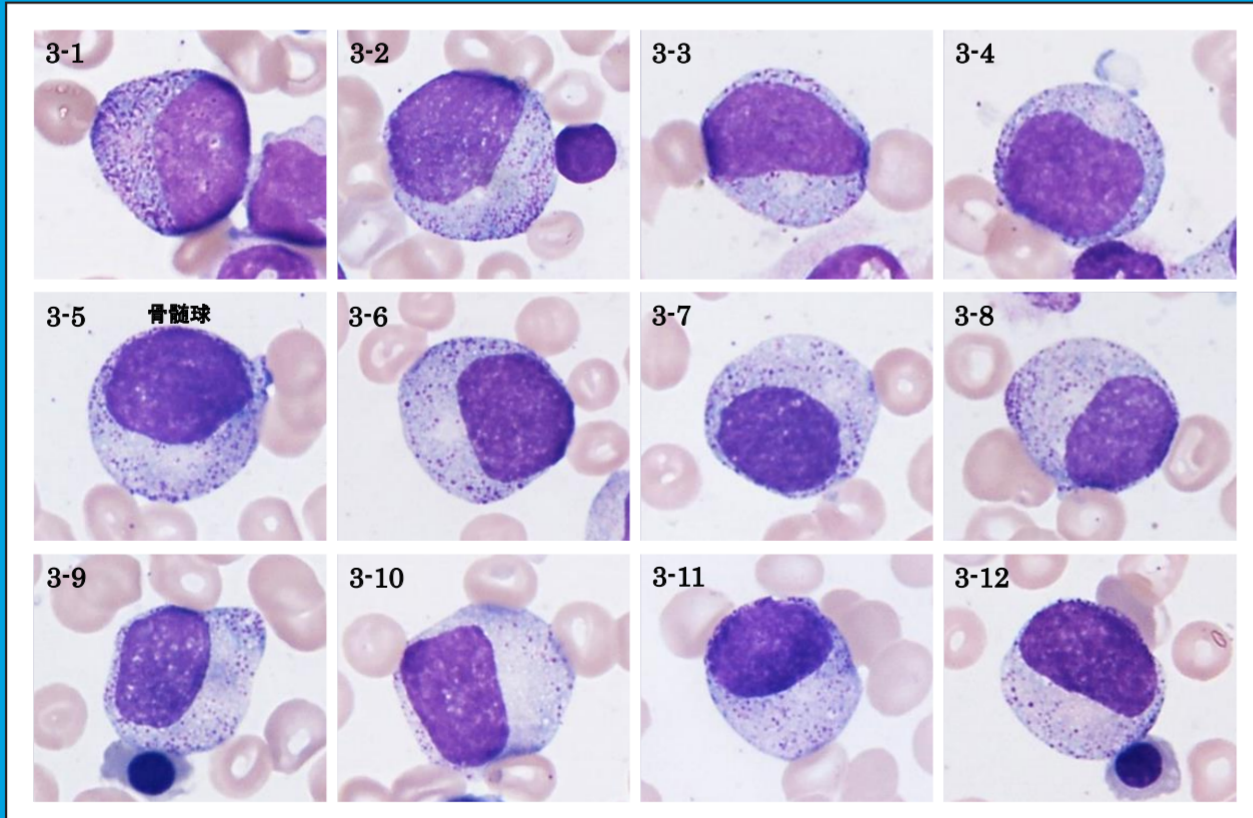
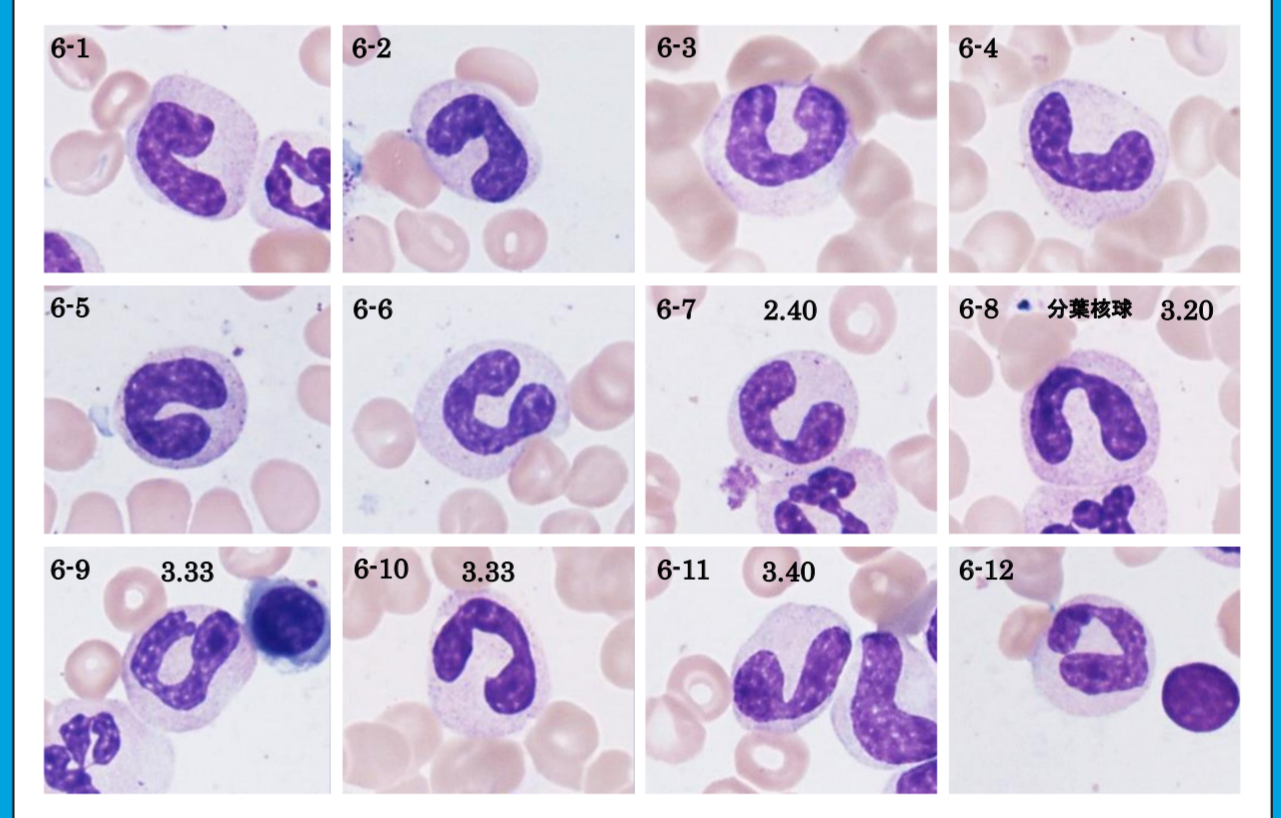
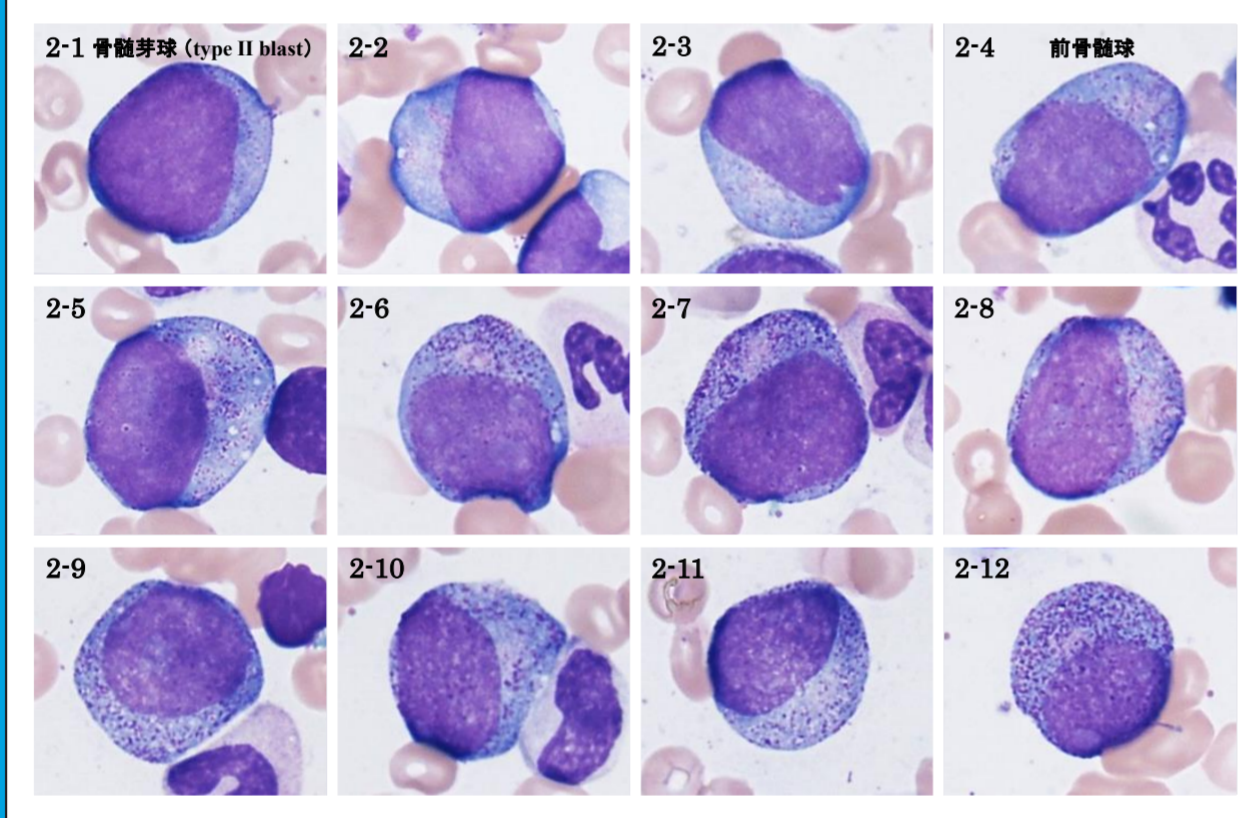
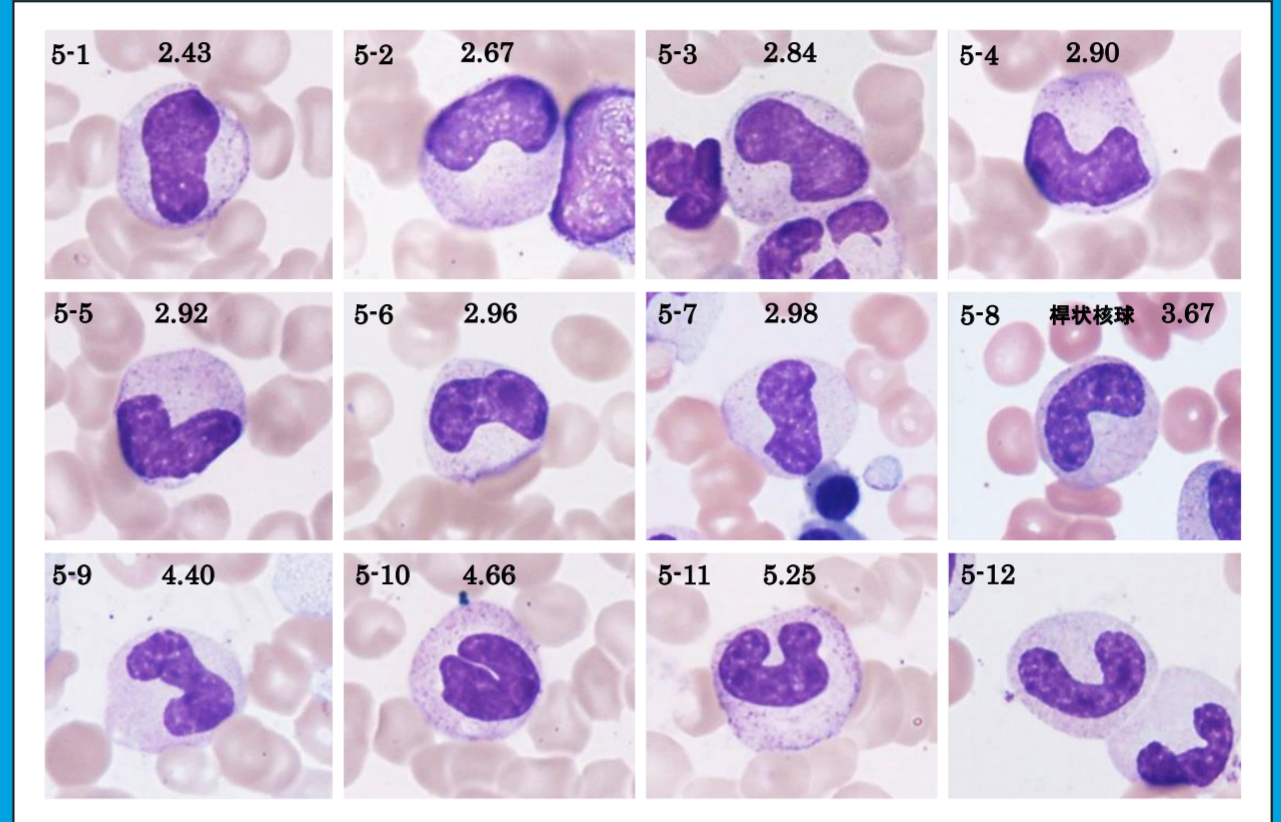
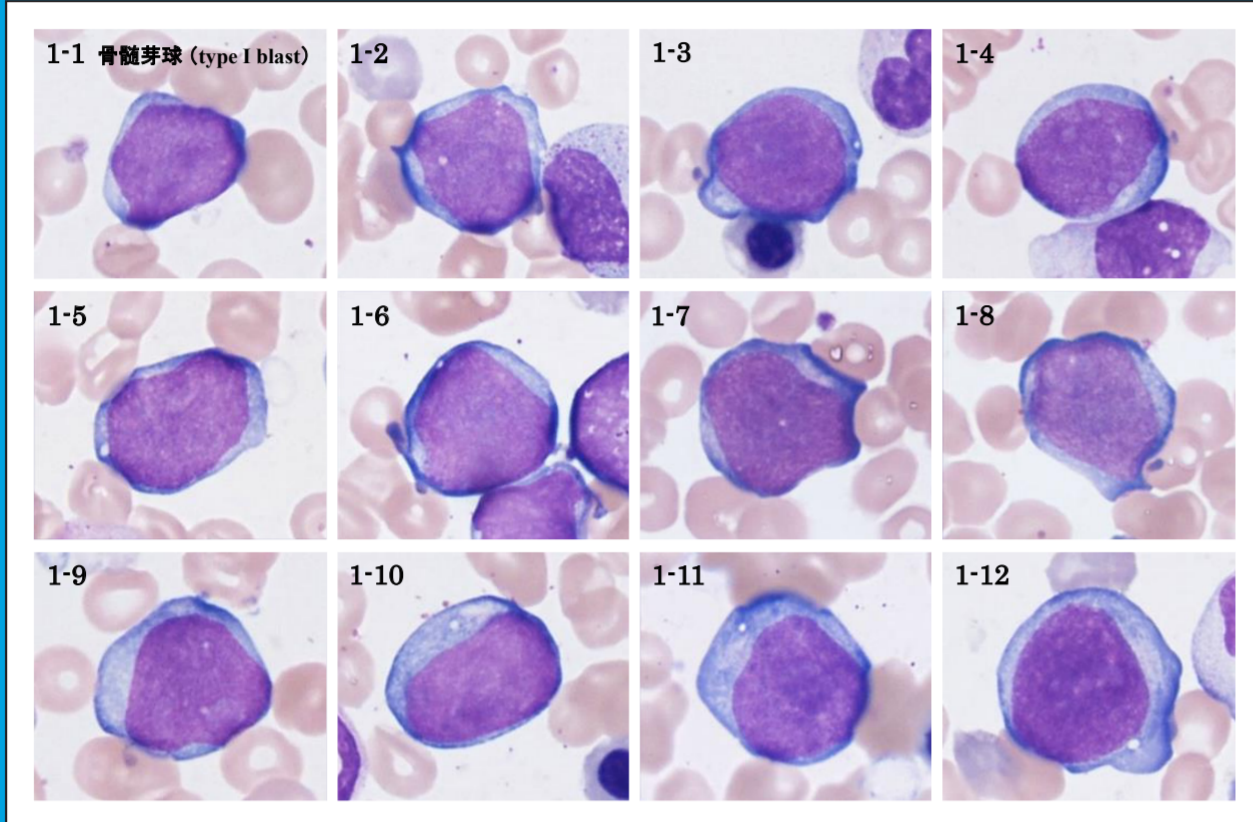
編集著作：血球形態標準化ワーキンググループ（日本検査血液学会・日本臨床衛生検査技師会） 2021年6月1日発行

日本検査血液学会血球形態標準化小委員会および血球形態標準化ワーキンググループにおける骨髓幼若顆粒球の分類基準の改訂（2019年）

細胞の鑑別に当たっては、**赤文字**の部分为主要な鑑別点とし、観察する標本中の細胞の分化・成熟過程を把握したうえで分類する。

細胞名称	直径	N/C比	核の位置または形態	核クロマチン構造	核小体	細胞質
骨髓芽球 / myeloblast (type I blast)	10 ~ 15 μm	60 ~ 80%程度	やや中央に位置する	網状繊細	認められる、やや白みがかかる	青色、顆粒は認めない
骨髓芽球 / myeloblast (type II blast)	10 ~ 15 μm	60 ~ 80%程度	やや中央に位置する	網状繊細	認められる、やや白みがかかる	青色、顆粒を認める
前骨髓球 / promyelocyte	15 ~ 20 μm	50 ~ 70%程度	偏在する	繊細、骨髓芽球に比較しやや粗剛	認めることが多い	青色、アズール顆粒（一次顆粒）、明瞭なゴルジ野を認める
骨髓球 / myelocyte	12 ~ 20 μm	30 ~ 50%程度	類円形	粗剛	認められない	特異顆粒（二次顆粒）を認める、青色が薄れアズール顆粒は残存可
後骨髓球 / metamyelocyte	12 ~ 18 μm	20 ~ 40%程度	陥凹を認める、長径と短径の比 3 : 1 未満	粗剛、一部塊状	認められない	ほとんどが特異顆粒で占められる

幼若好酸球については、分類が必要なときは好中球の核の形態変化に準じ、好酸性骨髓球、好酸性後骨髓球に分類する。好塩基性特異顆粒を有する細胞は、分類困難なものもあるため好塩基球として一括分類する。



骨髓芽球 / myeloblast (type I blast) : 細胞番号1-1~1-12

骨髓芽球 / myeloblast (type II blast) : 細胞番号2-1~2-3

前骨髓球 / promyelocyte : 細胞番号2-4~3-4

骨髓球 / myelocyte : 細胞番号3-5~4-5

後骨髓球 / metamyelocyte : 細胞番号4-6~5-7

桿状核球 / band form : 細胞番号5-8~6-7

分葉核球 / segmented form : 細胞番号6-8~7-12

長径と単径の比率 : 細胞番号4-9~5-11

核の最大幅と最小幅の比率 : 細胞番号6-7~6-11